

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300652		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム百楽苑 (A)		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町南寺戸12-1		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2373300652-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和2年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

蒲郡市東部にある三谷海岸を眼科に見渡す山の中腹に位置し、蒲郡まつりでの花火大会、竹島水族館、三谷祭りを始め、地元の地域資源の活用、近所の保育園や小学校との交流を行っています。弘法山への散歩や近所のスーパーへのお買い物等をを通して地域の中で生活する事を大切にしています。町内や地域、民生委員の方々、包括支援センターの協力の元、平成27年から「認知症カフェ(通称「ぬくといカフェ」)」を三谷町内の2か所で実施しています。認知症相談、予防のためのレク・体操、また地域の薬剤師の方と協働し簡単な健康講座等を実施しております。ご家族様との関係を維持し協力を仰ぐため、面会時にきめ細かくホームでの様子を伝えるとともに、家族交流会ではご家族様と一緒に学んだり楽しんだりする中で入居者様・職員と交流して頂く工夫をしています。「共に思いやる心」を運営理念とし、入居者様の出来る力を尊重し、入居者様・職員がお互いに理解・協力しあい、役割を持って共に生活する事を心掛けて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三河湾や蒲郡市が一望できる高台に事業所があり、開所から16年を経ている。四季折々の景色の移ろいを感じ取ったり、夏の花火大会では居ながらにして壮大を楽しめる環境にある。サンデッキで愛犬「モモちゃん」が飼われ、皆の癒しや励みとなっている。「共に思いやる心」を運営理念とし、重点方針、個人目標を策定し、その人ができることを自信をもって過ごせるように職員間で話し合い、2ユニットが一体となってケアに繋げるように努めている。地域の祭りへの参加、保育園や小学校との交流、地域の名所への散策など地域との信頼関係が繋がりが深まっているが、コロナ禍の中、催しの中止などで踏み止まっている。職員は事業所ですることを生活の中に取り入れ、四季の移ろいや生活のメリハリを楽しめるように支援をしている。入居者は広いリビングで談笑をしたり、趣味の手芸や塗り絵など、思い思いの時間を穏やかに過ごしている。職員の丁寧な関わりや言葉がけに心がけ、「入居者主体」の快適なグループホームを目指して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2373300652					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践できるように繋げている。全体会議や、チーフ会議での検討内容をフロア会議で他職員に伝え、法人の研修などでも理念を意識付けるようにしている。	法人理念を基に、ホーム理念、重点方針、個人目標を策定し、事務所に掲示して朝礼時に唱和している。リビングなどにも掲示し、常に目で確認できるようにし、職員それぞれが理念を共有し、支援に活かす取り組みをしている。年2回の人事考課でチーフ、管理者との3者面談で振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内の敬老会、買物、床屋の利用、散歩などを通して近隣との交流をしている。利用者様が作成した作品展示なども行っています。施設の花火大会(お祭り)の参加の促し、認知症の理解の講話、認知症カフェを開催し、交流や相談等行っている。コロナ感染症の為行事等参加できないことあり。	町内会に加入し、回覧版や公報で地域の情報を入手している。廃品回収の手伝い、避難訓練、フェスティバル等の活動に参加し、地域の一員として活動している。保育園とは遊びの交流や相撲取りの来訪などで交流をしたり、小学校の催しの参加への誘いも受けている。地区の集會場で認知症カフェを運営したり、認知症サポーター養成講座を行い、地域貢献を目指している。コロナ禍のため、地域との交流やお祭りなどのイベントは自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への認知症におけるサポート講習会、また認知症カフェを通して認知症に関する相談などを受けている。また、事業所自身が相談窓口として地域へ回覧を行っている。運営推進会議でも事例などを地域の人に向けて発信している。コロナ感染症の為できない期間もあり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況の報告等の意見交換及び家族アンケート・外部評価の結果報告、法人の苦情処理委員会等の報告を行っている。また、その内容に関する質疑応答により、意見をサービスに反映している。入居者様のご家族様に対して文書を送り、また口頭での参加依頼を実施し参加して頂けるよう働きかけを行っている。コロナ感染により、令和2年に入り行っていない。	老人会長、民生委員、社協、市や包括支援センター職員の参加を得て年6回開催している。事業所の状況や行事の報告、出席者からの福祉フェスティバルなどの参加打診や行政の情報などがあり、意見や提案等はその場で話し合ったり、記録して会議などで協議しサービスの向上に活かしている。家族には議事録を送付して内容を伝えている。コロナ禍以降文書での開催となっている。家族、市(社協)、包括支援センター、民生委員、老人会へ文書を送り、電話で意見の交換等行っている。12月より再開できるか現在検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護更新、事業所変更届等の際に情報交換を行っている。また、事故報告書を届け出る際に、適切な助言を得ている。その他ぬくといカフェ(認知症カフェ)の運営についても適宜助言を頂いている。コロナ感染症に対しても保健所や、市役所など連携を取っている。	介護更新手続きや処遇に関しての疑問や質問等について市と連絡を取り、助言や指導を受けている。地域包括ケア推進協議会で認知症地域支援部会のメンバーであり、専門部会の委員を務めたり、認知症カフェの運営では、市や包括支援センターと協働で活性化を図り、協力関係を築くように取り組んでいる。講習会等には積極的に参加しているが、コロナ禍の中、自粛している。認知症ケア会議は再開され、出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の声掛けの仕方や見守り方法の徹底、また、身体拘束的において不適切事例などを理解し身体拘束を行わないようにしています。研修も非常勤を含め全職員が取り組む様になっています。また、利用者様が自由に行き来できる環境に取り組んでいます。	拘束委員会を立ち上げ、全体ミーティングの中で振り返り協議し、また、身体拘束の指針に基づいて勉強会もしている。職員は、人としての尊厳を大切にして身体拘束や過剰介護、スピーチロックなどをしない入居者主体の考えを基にしたケアあり方を周知し、理解を深めるようにしている。ユニット間の行き来は見守りながら、自由な生活空間を提供し束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、また管理者、チーフ共職員のストレス、疲労等にも配慮し、虐待に繋がらないように心がけている。職員等の接し方、言葉の使用方法など定期的に確認している。虐待についても会議にて確認し、研修に参加してもらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で成年後見制度を利用している方がいたので、権利擁護に関する制度について、掲示物により周知し、全体ミーティングでも情報提供を実施した。また実際に利用されている利用者様の後見人の方と情報交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前に、重要事項の説明に沿って細かく説明している。また、説明等を行う上で、事業所としてできる事、出来ない事など明確化し、家族、相談者の立場にたって説明を行っている。契約後の料金の変更などは再度説明し同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様や、家族用に意見箱の設置、また、市役所の介護相談員の訪問等を行い、運営に反映させるような環境づくりに取り組んでいる。家族の意見を取り入れるようにアンケートの実施も行い率直な意見を頂ける様に対応をしている。	入居者の意見や要望は、日々のケアの中から傾聴や表情からくみ取るようにしている。家族からは、面会時や家族会の折りに聞き取り、付箋に記載し掲示したり、介護記録や申し送り帳に記入している。意見や要望は介護計画の参考にしたり、職員で検討し運営に反映している。コロナ禍以降面会はリモートと玄関前のテーブル席で行っており、その折や書類等の受け渡し時に、アンケートを実施し、家族からの意見を頂いている。意見はフロア会議等で検討して、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の面談や日頃のコミュニケーションを通し意見や要望を把握し、取り入れる様に努めている。また、ミーティング、個々での話し合いなどを通じ、職員の意見を取り入れるように常に努めている。	日常の業務の中や引継ぎ時、また、月1回の全体会議とフロア会議で職員の提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。年2回の人事考課時に個人面談を実施し、要望、意見、悩みなどを聞く機会を設け、運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格(職務)手当などの支給体制、資格に向けた勉強会なども行っている。また、健康診断も年に2回、行い、ストレスの要因にも個々に気を配り、職員同士の人間関係の把握にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招き、役職者、生活支援技術の研修を取り組んでいる。またOJTの体制も確保し、多くの職員が研修にいける体制を整えている。、研修に行った後には、複命会など行い、各職員にも伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河ブロックに参加し、情報交換や研修に参加、また合同レクに入居者様と共に参加し、ネットワーク作りに努めている。また、蒲郡市介護サービス連絡協議会に参加、研修参加し意見交換を通じ交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前には、本人の会って会話し意思や想いを聴き理解するように努めている。また、生活暦や、思いを汲み取り、職員一人ひとりが意識を持って関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の意見や希望を聞き想いを汲み取り、それを職員が理解するように取り組んでいる。また、面会時の時に職員に聞きやすい関係づくりに取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応として、相談者には、他事業所を紹介したり、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に連絡をした事例もある。状況等を確認の上、信頼関係を築きながら、必要なサービス提供に繋がるような支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中での関わりを通して、その人らしさを尊重しながら、職員と利用者の関係だけではなく、同じ空間で同じ気持ちを共有しながら生活環境を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中での関わりを通して、その人らしさを尊重しながら、職員と利用者の関係だけではなく、同じ空間で同じ気持ちを共有しながら生活環境を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりのご希望に伴いお墓参りに出掛けたり馴染みの店へ買い物や食事に出掛けたり、地元のお祭りに参加したり等して地域関係の維持を図っている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。入居者の友人の来訪や外出時に友人や知人と会い、旧交を温めている。また美容院や喫茶店、書店等なじみの店や、趣味の店に出かけるなど、地域の記憶をたどったり地域関係の維持に努めるようにしている。コロナ禍においては、外出を控えており馴染みの人などの関係継続が困難となっている。ショートステイを使い、家族の方に宿泊に来ていただいたり、昔食べたものを作ったりして、記憶の維持を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	日常生活の中で、本人と他利用者様との関係の把握 に努め、利用者同士の関係の潤滑油になるように職員 が働きかけをしている。コロナ感染の為外出は自粛し ています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数年前に退居された方のご家族様が、施設を訪問さ れ、自宅で作っている花を届けてくれる事がある。また 買い物等で出会った際はあいさつと近況をお伺いして いる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常生活の中での何気ない会話や表情を通して思い の把握に努め、職員同士で意見交換をしながら共有し ている。把握が困難な利用者様に対しても、非言語コ ミュニケーションを活用し本人本位の意思を尊重して いる。	入居者との会話や表情、しぐさ、行動の傾向など、新しく入手 した情報をフェイスシートや申し送り帳に書き加えることによ り情報の共有を図り、本人の思いに沿えるようにしている。 意思の表出が困難な入居者からは、入浴時等リラックスして いるときに傾聴するなどして、希望等をくみ取れる努力を続 けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人の生活歴、バックグラウンドを把握するようにし、そ れに合ったホームでの生活を送る事が出来る様に環境 を近づけるようにしている。また、馴染の家具や物を 持ってきて頂き、家族や、地域とも連携を図り、個別に 対応できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の暮らし方や生活のリズムを理解する とともに、出来ること、出来ないことの把握に努め、それ に添いながら職員と共に行動したり、行動できるように努 めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	アセスメントを基にカンファやモニタリングを行い、職員 一人一人が理解できる様に努め、本人や家族の意見 を聞き、プランに取り入れ、それを職員全体で理解でき るような体制に心掛けている。	居室担当が入居者の意向を聞いたり日常の様子を記載した個 別記録を基に、家族や医師など関係者の意見や意向等踏まえ て、ミーティングで検討して介護計画を作成している。3か月毎に モニタリングをし、6か月に1回の定期見直しや状況に応じて随 時見直しをし、家族に内容を説明し同意を得ている。どの職員も 記録内容を共有したり、入居者の状態を把握し同じケアができ るようにしている。今年度から24時間シートを導入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノート等を活用し、情報共有に努 めている。その都度の対応を検討するとともに、介護計 画の見直しが必要な場合は、反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要なサービスは何かを考え状況に応じた支援を行い、緊急時における受診、外泊、通院、外出等家族の思い、また利用者様本人の意思に添いながら、柔軟に対応できる体制に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の餅投げやお祭り、保育園児との交流会、小学校の運動会等に参加し、地域交流を図りながら楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を密に行い、必要な診療科目も紹介状などで、受診している。(眼科、歯医者、皮膚科など)また、利用者様が馴染みのある医院なども受診している。Dr、家族、職員と話し合う場も設けている。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いて選択して頂いている。内科月1回、歯科2か月に1回の協力医による往診がある。従来のかかりつけ医を希望する方や、専門医の診察が必要な場合は送迎や受診介助も行っている。また、家族対応の診察にはできるだけ職員が同行し、受診内容を正確に把握できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にも健康管理表を作成し、日頃の健康管理を行っていただくと共に、看護師を職員配置している。状態の変化に応じ看護師に的確に伝達できるよう努め、また、薬剤師、管理栄養士とも適切な医療面での連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時における手続きに関しては、協力医療機関のDrと連絡をとり、スムーズに行えるように支援している。また、入院中も本人の様子を必ず見に行き、家族と、ホーム側職員と必ず一緒に主治医のお話を聞く事している。退院にむけての支援もおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対応し、本人、家族の意思を尊重し、入所する前に家族の想いを職員で話し合いの場を設けている。また終末期における対応も、本人、家族の希望に出来るだけ添い、看取りの対応をしている。終末期におけるケアも家族、医師、看護師、職員と連携をとりながら支援体制が出来ている。	重度化や終末期、看取りについては入居時に、ターミナルケアの指針等に基づき説明し、意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度本人や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように日頃から研鑽を重ねている。「看取りは入居時から始まっている」という意識のもと、看取り後の職員へのカンファレンスを行い、また他の入居者へも配慮し、体制を整えている。看取りの経験もあり、対応は職員のメンタルケアも含めて法人内で確立されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修、また、法人内においても緊急時の研修を行っている。パートを含め職員全員が対応出来るようにしている。緊急時の対応を掲示し、また伝達方法を確認しながら、敏速に対応できるように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回以上(地震対応・夜間想定)実施し、対応力の養成を図っている。夜勤帯の訓練についても実施し緊急時に初期消火や誘導ができるようにしている。地域との協働については運営推進会議でも議題に挙げ、参加できるよう検討している。	パートも含めた全職員が、災害対策時の対応や知識を習得するために、年2回以上避難訓練を実施している。消防署の立会いの下に訓練を実施し、評価や指導も得られ成果が上がっている。7日分の備蓄があり、チェックリストにより品質管理されている。ハザードマップによりどのような危険があるか把握して、対応策を検討している。	非常時の協力依頼は、周辺地域に協力依頼してあるとのことであるが、地域との連携強化の一環として運営推進会議の中で、地域住民参加のうえでの避難訓練を行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体MT等を通して、不適切な言葉づかいをしないよう注意しあっている。人事考課を行うにあたって、正しい接遇を学び実践している。トイレ誘導の際は、他入居者様への配慮をしている。入浴介助は同性介助を希望する方はその様にしている。	法人による接遇研修に参加したり、人事考課の評価項目に接遇の項目を設けることによって、職員の意識を高めるようにしている。特に言葉遣いに配慮して、職員同士注意し合っている。入居者が主役であり、入居者の意思や気持ちを大切に、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう選択肢を設けたり、希望を伺ったりしている。介護者の一方的な支援によらないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや散歩、家事などへの参加、入浴や休養の希望において、自己決定できる言葉かけにより、ご本人様の意向を伺って行って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、助言をしながらご本人様に選択して頂いている。外出時は、衣類の選択の際、助言をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事に関しては、利用者様の意見を取り入れ、献立に組み入れている。また、買い物にも行き、好みの物を購入できる環境にも取り組んでいる。おやつ作り、盛り付け等も利用者様と一緒にやっている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、季節の食材や行事食などに配慮した食事が提供され、近隣の法人施設で調理された食事が配達されている。給食委員会で入居者の好みや希望を取り入れた献立や食材の希望などを反映している。入居者は保有能力に合わせて、盛り付けや片付け、洗い物等出来る事を職員と一緒にやっている。誕生日の手作りケーキを作りやおやつ作りなども楽しみのひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事管理栄養士が献立を立てている。食事量が低下された方は、好みの物やふりかけ等を利用しただけ食事を召し上がって頂ける工夫をしている。また、医師に相談し、エンシュアキッドを処方して頂いている。むせが気になる水分を控えがちな方は適宜トロミ剤やゼリーで水分補給を行う事ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは訪問歯科医の元、指導を受け対応したり、往診してもらっている。また、嚥下障害のある方など、ハミングッドなどを使用し個別に対応をしている。菌磨きも、なるべく出来る事は本人に促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから布パンツに変え、排泄のタイミングをみて声掛けし誘導する事で、トイレでの排泄を支援している。また、水分を控える方、なかなかトイレへ行かない方には、尿検査の結果をお伝えし、水分摂取と陰部の清潔を保つよう、職員が声掛けしトイレ誘導を支援している。また必要な方は1日に数回陰部洗浄を実施している。	24時間シートで管理することにより、適切な排泄支援が行われている。あえて、布パンツを使用して、排泄のタイミングをみて声を掛け誘導することで、トイレでの排泄を目標にして、支援に心がけている。夜間は睡眠を妨げないように配慮したうえで声掛けや誘導している。水分不足にならないように注意し、ヨーグルトの摂取やテレビ体操、散歩、入浴時の腹部マッサージなど自然排便に繋がる努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックを行い、また午前中のおやつにはヨーグルトの提供を行い、水分摂取が不足がちの方にはゼリーなどを召し上げて頂いている。便の形状により医師に薬処方を相談し自然な排便を心掛けている。また、適度な運動として、テレビ体操や散歩、入浴時の腹部マッサージを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後入浴、入浴日の希望、同性介助の希望等に応じている。また、自発的な希望が無い方には、声かけを行い了承を得た入浴支援をしている。	基本的には週2~3回、同性介助や午前か午後かの希望を聞いて入浴している。毎日の入浴にも希望があれば対応できる。湯は毎回入れ替えており、清潔な入浴支援が行われている。入浴を忌避される方にもさりげなく誘導して、気持ちよく入浴できるように支援をしている。ヒートショック対策として床暖房とヒーターが設置されている。ゆず湯やしょうぶ湯の他入浴剤も使用し、入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の希望や体力により日中も必要に応じ休息して頂いている。昼夜逆転傾向の方については、無理の無い程度に外気浴や散歩等の昼間活動を促している。夜間は、ご本人様の希望による照明にしている。また、早い時間から起床し眠れない方には就寝を無理強いしない支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、本人である事を確認し、のみ込むまで確認している。その方の嚥下状態によりDrと相談しながら形態を考えている。また、薬剤師にも都度相談し、本人に合った服薬ができるように調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味活動について、興味・関心があるものを行って頂いている。また、生活歴の中で歌が得意だった方と他入居者が楽しむことができるよう、歌詞カードを数冊用意しカラオケ等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物希望がある場合は、職員と相談し日時を決め練している。また、散歩は歩行状況に合わせて支援を行う事に加え、出来る限りご家族様等とともに外出できるよう支援している。	散歩は可能な限り、出かけるようにしている。庭やホーム廻りの清掃、花壇や菜園の手入れ、買い物、ベランダでの洗濯物干しなど外に出る機会を大事にしている。買い物や墓参りなどの希望にも沿うようにしている。お祭りや花見など家族とともに外出する機会を積極的に支援している。コロナ禍以降外出は自粛している。周辺の散歩やベランダ、駐車場で季節の花や菜園を眺めて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、ご家族様の意向とご本人様の管理能力に応じ相談している。ご本人が所持金を管理できる方は、買い物に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、手紙など家族へ送るように職員から促したり聞いたりしている。また家族へ連絡、お話等する電話も応接室にて、気兼ねなく電話できるような環境に努めている。コロナ感染の為にリモート面会なども行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下等に入居者様の作品や行事の写真等を飾っている。脱衣場・風呂場の空調は、早めに床暖房やヒーターの準備をしている。居室も利用者様に伺いながら調整している。清潔を保てるよう、できる方は一緒に掃除や片付けを行っている。	三河湾が一望できる風光明媚な立地であり、日当たりの良い共用空間となっている。採光や風通しの良い食堂と居間がフンフロアの共有スペースで、入居者の動きや気配がよく見渡せる。各ユニットの共有のサンデッキは、市内や三河湾が一望でき、飼犬が癒しとなっている。リビングや廊下には、季節に応じた作品や花、行事の写真が掲示され、和やかさを感じる。清掃や整理が行き届き、畳コーナーやゆったりしたテーブルの配置の中で、気持ちよく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳スペースは、座る方や寝転ぶ方との交流で活用している。自席でテレビをご覧になったり、入居者様同士で会話や歌等を楽しまれたりしている。また、自席で一人の時間を過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や寝具を持参して頂くよう家人様にお話している。居室内は作品や趣味の物等で飾りつけをされる方もある。自宅から必要以上の荷物の持ち込みをされない方もおられる。	広めの居室にはペット、空調、カーテン、大きめのクローゼット、鏡付きの洗面台が設置されている。家庭で使い慣れた家具や仏壇、道具などを持ち込んで居心地の良い部屋づくりがされている。ベッドを使わない方もおり、自分の生活にあった居室作りをしている。編み物等趣味の時間を部屋で過ごしている。職員の声かけで一緒に掃除をするなど清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のそれぞれの身体状況等を把握し、本人が不安や、混乱が起きないような環境づくりをしている。失敗や、不安、混乱等を起こした場合は職員同士で話し合いをし改善に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300652		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム百楽苑 (B)		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町南寺戸12-1		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2373300652-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和2年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

蒲郡市東部にある三谷海岸を眼科に見渡す山の中腹に位置し、蒲郡まつりでの花火大会、竹島水族館、三谷祭りを始め、地元の地域資源の活用、近所の保育園や小学校との交流を行っています。弘法山への散歩や近所のスーパーへのお買い物等をを通して地域の中で生活する事を大切にしています。町内や地域、民生委員の方々、包括支援センターの協力の元、平成27年から「認知症カフェ(通称「ぬくといカフェ」)」を三谷町内の2か所で実施しています。認知症相談、予防のためのレク・体操、また地域の薬剤師の方と協働し簡単な健康講座等を実施しております。ご家族様との関係を維持し協力を仰ぐため、面会時にきめ細かくホームでの様子を伝えるとともに、家族交流会ではご家族様と一緒に学んだり楽しんだりする中で入居者様・職員と交流して頂く工夫をしています。「共に思いやる心」を運営理念とし、入居者様の出来る力を尊重し、入居者様・職員がお互いに理解・協力しあい、役割を持って共に生活する事を心掛けて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三河湾や蒲郡市が一望できる高台に事業所があり、開所から16年を経ている。四季折々の景色の移ろいを感じ取ったり、夏の花火大会では居ながらにして壮大を楽しめる環境にある。サンデッキで愛犬「モモちゃん」が飼われ、皆の癒しや励みとなっている。「共に思いやる心」を運営理念とし、重点方針、個人目標を策定し、その人ができることを自信をもって過ごせるように職員間で話し合い、2ユニットが一体となってケアに繋げるように努めている。地域の祭りへの参加、保育園や小学校との交流、地域の名所への散策など地域との信頼関係が繋がりが深まっているが、コロナ禍の中、催しの中止などで踏み止まっている。職員は事業所ですることを生活の中に取り入れ、四季の移ろいや生活のメリハリを楽しめるように支援をしている。入居者は広いリビングで談笑をしたり、趣味の手芸や塗り絵など、思い思いの時間を穏やかに過ごしている。職員の丁寧な関わりや言葉がけに心がけ、「入居者主体」の快適なグループホームを目指して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2373300652					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践できるように繋げている。全体会議や、チーフ会議での検討内容をフロア会議で他職員に伝え、法人の研修などでも理念を意識付けるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の敬老会、買物、床屋の利用、散歩などを通して近隣との交流をしている。利用者様が作成した作品展示なども行っています。施設の花火大会(お祭り)の参加の促し、認知症の理解の講話、認知症カフェを開催し、交流や相談等行っている。コロナ感染症の為行事等参加できないことあり。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への認知症におけるサポート講習会、また認知症カフェを通して認知症に関する相談などを受けている。また、事業所自体が相談窓口として地域へ回覧を行っている。運営推進会議でも事例などを地域の人に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況の報告等の意見交換及び家族アンケート・外部評価の結果報告、法人の苦情処理委員会等の報告を行っている。また、その内容に関する質疑応答により、意見をサービスに反映している。入居者様のご家族様に対して文書を送り、また口頭での参加依頼を実施し参加して頂けるよう働きかけを行っている。コロナ感染により、令和2年に入り行っていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護更新、事業所変更届等の際に情報交換を行っている。また、事故報告書を届け出る際に、適切な助言を得ている。その他ぬくといカフェ(認知症カフェ)の運営についても適宜助言を頂いている。コロナ感染症に対しても保健所や、市役所など連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の声掛けの仕方や見守り方法の徹底、また、身体拘束的において不適切事例などを理解し身体拘束を行わないようにしています。研修も非常勤を含め全職員が取り組む様にしています。また、利用者様が自由に行き来できる環境に取り組んでいます		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、また管理者、チーフ共職員のストレス、疲労等にも配慮し、虐待に繋がらないように心がけている。職員等の接し方、言葉の使用方法など定期的に確認している。虐待についても会議にて確認し、研修に参加してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で成年後見制度を利用している方がいたので、権利擁護に関する制度について、掲示物により周知し、全体ミーティングでも情報提供を実施した。また実際に利用されている利用者様の後見人の方と情報交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前に、重要事項の説明に沿って細かく説明している。また、説明等を行う上で、事業所としてできる事、出来ない事など明確化し、家族、相談者の立場にたって説明を行っている。契約後の料金の変更などは再度説明し同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様や、家族用に意見箱の設置、また、市役所の介護相談員の訪問等を行い、運営に反映させるような環境づくりに取り組んでいる。家族の意見を取り入れるようにアンケートの実施も行い率直な意見を頂ける様な対応をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の面談や日頃のコミュニケーションを通じ意見や要望を把握し、取り入れる様に努めている。また、ミーティング、個々での話し合いなどを通じ、職員の意見を取り入れるように常に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格(職務)手当などの支給体制、資格に向けた勉強会なども行っている。また、健康診断も年に2回、行い、ストレスの要因にも個々に気を配り、職員同士の人間関係の把握にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招き、役職者、生活支援技術の研修を取り組んでいる。またOJTの体制も確保し、多くの職員が研修にいける体制を整えている。、研修に行った後には、復命会など行い、各職員にも伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河ブロックに参加し、情報交換や研修に参加、また合同レクに入居者様と共に参加し、ネットワーク作りに努めている。また、蒲郡市介護サービス連絡協議会に参加、研修参加し意見交換を通じ交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前には、本人の会って会話し意思や想いを聴き理解するように努めている。また、生活暦や、思いを汲み取り、職員一人ひとりが意識を持って関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問や不安な事を伺い、過去の事例を紹介して不安を和らげる事ができるようお話しさせて頂いている。また、施設入居後の心情を汲み、不安や気持ちの整理が必要な方には時間をかけ傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際に、ご希望を伺い、施設でできること・本人様や家族様がしたい事を話し合い、他事業所の方が望ましい場合は、他サービスの利用についてご説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中での関わりを通して、その人らしさを尊重しながら、職員と利用者の関係だけではなく、同じ空間で同じ気持ちを共有しながら生活環境を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も良好な家族関係を続ける事ができるよう、近況報告や情報交換を行い、要望を伺い一緒に支えていく関係づくりに努めている。ご家族様の力が必要な場合は相談し、ご家族様だからこそできる声かけ等を依頼している。またケアプランの作成時にもできる限り家族様と共に行う事ができるようなサービス内容を検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりのご希望に伴いお墓参りに出掛けたり馴染みの店へ買い物や食事に出掛けたり、地元のお祭りに参加したり等して地域関係の維持を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、本人と他利用者様との関係の把握に努め、利用者同士の関係の潤滑油になるように職員が働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数年前に退居された方のご家族様が、施設を訪問され、自宅で作っている花を届けてくれる事がある。また買い物等で出会った際はあいさつと近況をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での何気ない会話や表情を通して思いの把握に努め、職員同士で意見交換しながら共有している。把握が困難な利用者様に対しても、非言語コミュニケーションを活用し本人本位の意思を尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴、バックグラウンドを把握するようにし、それに合ったホームでの生活を送る事が出来る様に環境を近づけるようにしている。また、馴染の家具や物を持ってきて頂き、家族や、地域とも連携を図り、個別に対応できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の暮らし方や生活のリズムを理解するとともに、出来ること、出来ないことの把握に努め、それに添いながら職員と共に行ったり、行動できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族様の希望をお伺いし、普段の会話でご本人様の希望を把握し、担当者会議で意見交換をし介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化も見逃さず記録し情報共有している。申し送りも1日2回行っている。介護計画も常に閲覧できるようにし、介護計画に沿った支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事が減少されている方に好みの物をご家族様に伺い、購入したり持ち込んで頂いたりしている。また、ご希望により個別の外出に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の餅投げやお祭り、保育園児との交流会、小学校の運動会等に参加し、地域交流を図りながら楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を密に行い、必要な診療科目も紹介状などで、受診している。(眼科、歯医者、皮膚科など)また、利用者様が馴染みのある医院なども受診している。Dr、家族、職員と話し合う場も設けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にも健康管理表を作成し、日頃の健康管理を行っていただくと共に、看護師を職員配置している。状態の変化に就き看護職に的確に伝達できるよう努め、また、薬剤師、管理栄養士とも適切な医療面での連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時における手続きに関しては、協力医療機関のDrと連絡をとり、スムーズに行えるように支援している。また、入院中も本人の様子を必ず見に行き、家族と、ホーム側職員と必ず一緒に主治医のお話を聞く事にしている。退院にむけての支援もおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対応し、本人、家族の意思を尊重し、入所する前に家族の想いを職員で話し合いの場を設けている。また終末期における対応も、本人、家族の希望に出来るだけ添い、看取りの対応をしている。終末期におけるケアも家族、医師、看護師、職員と連携をとりながら支援体制が出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修、また、法人内においても緊急時の研修を行っている。パートを含め職員全員が対応出来るようにしている。緊急時の対応を掲示し、また伝達方法を確認しながら、敏速に対応できるように徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回以上(地震対応・夜間想定)実施し、対応力の養成を図っている。夜勤帯の訓練についても実施し緊急時に初期消火や誘導ができるようにしている。地域との協働については運営推進会議でも議題に挙げ、参加できるように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体MT等を通し、不適切な言葉づかいをしないよう注意あっている。人事考課を行うにあたって、正しい接遇を学び実践している。トイレ誘導の際は、他入居者様への配慮をしている。入浴介助は同性介助を希望する方はその様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう選択肢を設けたり、希望を伺ったりしている。介護者の一方的な支援によらないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや散歩、家事などへの参加、入浴や休養の希望において、自己決定できる言葉かけにより、ご本人様の意向を伺って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の今までの生活、身だしなみ等を理解し、希望に添った対応に心がけている。美容院も今まで行っていた美容院にて、その人それぞれに選択を心がけている。また、本人の欲しい服、化粧品等も一緒に買い物することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる事、得意な事を活かし、食事の盛り付けやテーブルを拭く、下膳ができる方には運んで頂いたり、食器洗い等を行って頂いたりしている。また、おやつ作りではできる事に参加して頂けるよう声かけをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士が献立を立てている。食事が低下された方は、好みの物やふりかけ等を利用しただけ食事を召し上がって頂ける工夫をしている。また、医師に相談し、エンシュアリキッドを処方して頂いている。むせが気になり水分を控えがちな方は適宜トロミ剤やゼリーで水分補		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には洗浄液につける介助をしている。また、自分の歯がある方は、食後の歯磨きの声掛けを行い磨いて頂いている。ご自身で困難な方には、口腔ケアスポンジ等を使用し介助をしている。その他、訪問歯科を受けている方に関しては歯科衛生士からの助言を受け、施設全体でも口		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンの把握に努め、なるべく一人一人の自尊心に配慮し、自然排便を促している。個別に排泄に関しては話し合いのもと、また家族の意見も取り入れ慎重に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを毎日記録し、水分、運動等に対応している。また、水分補給にも気をつけ、散歩、体操などをし、腸の動きを良くするように心がけている。ヨーグルトなども個別に購入し、便秘改善を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望、その日の体調を踏まえ、清潔感を考え入浴を行って頂いている。異性の職員が行う場合も利用者様の心情を心がけ対応している。機械的に入浴するのではなく、落ち着いて入浴できるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく昼間は活動し夜は睡眠を促し、1日の生活ペースを個々に保てるようにしている。不眠等に関しては、Dr、家族とも相談し、本人が眠れない原因を考え対応している。夜間、温かいミルクや、ココアなど提供し睡眠を促している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、本人である事を確認し、のみ込むまで確認している。その方の嚥下状態によりDrと相談しながら形態を考えている。また、薬剤師にも都度相談し、本人に合った服薬ができるように調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、本人の活力的になる事を日々探しながら支援している。利用者様全体で行う行事や、個別で行える事を通しながら本人の気持ち、行いたい事を尊重し、出来る事は支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物希望がある場合は、職員と相談し日時を決め線している。また、散歩は歩行状況に合わせて支援を行う事に加え、出来る限りご家族様等とともに外出できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、ご家族様の意向とご本人様の管理能力に応じ相談している。ご本人が所持金を管理できる方は、買い物に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、手紙など家族へ送るように職員から促したり聞いたりしている。また家族へ連絡、お話等する電話も応接室にて、気兼ねなく電話できるような環境に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下等に入居者様の作品や行事の写真等を飾っている。脱衣場・風呂場の空調は、早めに床暖房やヒーターの準備をしている。居室も利用者様に伺いながら調整している。清潔を保てるよう、できる方は一緒に掃除や片付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳スペースは、座る方や寝転ぶ方との交流で活用している。自席でテレビをご覧になったり、入居者様同士で会話や歌等を楽しまれたりしている。また、自席で一人の時間を過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や寝具を持参して頂くよう家人様にお話している。居室内は作品や趣味の物等で飾りつけをされる方もある。自宅から必要以上の荷物の持ち込みをされない方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などの場所を見やすい文字で掲示を行っている。脱衣場は入居者様の動きに合わせて手すりをつけている。場所がわからない場合は入居者様同士で教え合う事もある。		